

「国語」

二

あとの問いに答えよ。

問一

次の(ア)～(エ)の傍線部の漢字の読みとして正しいものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号①～④に、(ア)から順にそれらの番号をマークせよ。

(ア) 膨大な量のゴミのリサイクルを行う。

- ① ぜつだい ② ばくだい ③ ぼうだい ④ ひだい ⑤ じんだい

(イ) 事態の解決のため、仲間と方々を奔走する。

- ① かいそう ② はんそう ③ しっそう ④ ばんそう ⑤ ほんそう

(ウ) 彼はその光景に思わず目を凝らした。

- ① じ ② ず ③ こ ④ そ ⑤ て

(エ) 彼なら逃亡計画を謀る可能性がある。

- ① さまたげ ② くわだて ③ ね ④ はか ⑤ いっわ

問二 次の(ア)～(エ)の傍線部の漢字と同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号

⑤ ⑧ に、(ア)から順にそれらの番号をマークせよ。

(ア) 名譽を挽カイする。 ⑤

- ① 病がカイ方に向かつて安心した。
- ② 機器の不具合がカイ復する。
- ③ 建て替えのためにビルを破カイする。
- ④ 彼の主張に対してカイ疑的になる。
- ⑤ 自らの行いに対するカイ恨の情が生じる。

(イ) 他人の問題にカン渉して非難される。 ⑥

- ① 困難に勇カンに立ち向かう。
- ② カン没した路面を改修する。
- ③ 子供に乗り物凶カンを買ってあげる。
- ④ 遺カンの意を表する。
- ⑤ 募集人数は若カン名に限られていた。

(ウ) 偉人の伝キを読む。 ⑦

- ① 昔のキ憶がよみがえる。
- ② キ元前数百万年も昔の地球を想像する。
- ③ 先人のキ跡をたどる。
- ④ 請求をキ却する。
- ⑤ キ習の内容を確認する。

(エ) 橋渡し役を彼にイ頼する。 8

① 試合の後に選手たちをイ労する。

② 目的地へのイ動時間を考慮する。

③ 彼女の職業はイ師だ。

④ 先行研究にイ拠して論文を書く。

⑤ 相手をイ縮させないよう配慮する。

問三

次の(ア)～(エ)の四字熟語の傍線部に用いられる漢字として正しいものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号 9 ～ 12 に、(ア)から順に、それらの番号をマークせよ。

(ア) 「ごりむちゅう」 9

① 武

② 夢

③ 無

④ 務

⑤ 霧

(イ) 「めいきょうしすい」 10

① 四

② 止

③ 史

④ 詩

⑤ 視

(ウ) 「せいさつよだつ」 11

① 世

② 余

③ 与

④ 夜

⑤ 予

(エ) 「ふんこつさいしん」 12

① 紛

② 粉

③ 分

④ 憤

⑤ 奮



次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

文学作品はその他の文章とどこが違うのでしょうか。どのあたりに特色があるのか。この一〇〇年ほど、批評家や研究者はずっとこの問いにぶつかってきました。その答えはまだ完全には出ていないようですが、文章のジャンルごとの特色をことばの「形」に注目しながら確認してみると、一つの手がかりが見えてきます。

その手がかりとは「**出自**」です。これまで見た文章は、ほとんどの場合「**出自**」が明確でした。レシピにしても説明書にしても、「これはレシピの一部である」「これは説明書である」というふうにはつきりとジャンルを示すことができました。こうした文章には明確な「場」と「用途」があるのです。

A 文学作品はどうでしょう。たしかに表層的な意味では、文学作品にも「場」があります。仮想書店にしてみリアル書店にしてみ、「小説」「文芸作品」といったカテゴリーやコーナーがしっかり用意されており、私たちは「これから小説を買うぞ」「さあ、小説を読もう」という明確な心構えを持って作品を手取るからです。

B、文学作品には他の文章のようなはつきりした「用途」はありません。作品を読んでいるとき、私たちは確実に何かを行っているのですが、そこには「用途」と言明できるような目的はありません。せいぜい「娯楽」とか「趣味」といった言い方でゆるく枠を示せるだけです。**C**、文学作品の文章はいったんもとの「場」から切り離されると、どこことなく所在なさそうに見えてきます。しかし、まさにこの所在なさこそが、つまり、明確な用途がないということこそが、文学作品の最大の特徴かもしれません。

そのあたりがはつきり出るのは次のような反対方向の実験を行ったときです。ジョンサン・カラーは著書『文学理論』の中で、明確な「用途」がないことが文学作品の文章の特徴だという見方を紹介した上で、逆に他のジャンルの文章を「文学化」してみせます。やり方は簡単です。レシピなり説明書なりを、それが置かれていた「場」から取り出しコンテキストを抹消するのです。すると、その「用途」が不明になります。不思議なことにこの脱コンテキスト／脱用途を経ただけで、文章がまるで文学作品であるかのように見え始めるのです。

カラーは次の一節を引用した上で、タイトルさえつけられればそれが文学作品と見えてもおかしくないと述べています。

勢いよくかき混ぜて、五分間そのまま置いておく。

たしかにレシピの一部分を断片的に引き抜いて提示しただけなのに、どこかミステリアスな雰囲気漂ってくる気がします。もちろんカラーも言うようにコンテキストからの抜粋だけでは文学化は完成しないわけですが、用途を抹消するだけで文章にはすでに何らかの化学変化のようなものが起きます。これがどうやら作品化の第一歩なのです。

カラーはさらにW・O・クワインの哲学書『論理的な観点から』の冒頭をわざと行分けした上で引用し、「こんな風に頁の上に書き留められ、怖ろしい沈黙の余白に取り囲まれると、この文は、文学的と呼べそうなある種の注意を引きつけることができる」と言っています。

ひとつ奇妙なことが

存在論的問題には、在る、その

単純性。

カラーの「沈黙の余白」という言い方からもわかるように、文章に化学変化が起きるのはそれを「孤立」させたときです。ジャンルや場というコンテキストから切り離され孤立した文章は、真剣に読むべき対象へと格上げされます。その結果、読者は「文学につきものの解釈活動」へと誘われます。そうやって読者がある種の姿勢へと導き、「読む」という行為を意識的に行わせることが「文学の誕生」につながるということです。

孤立こそが文学作品の文章の大きな特徴だとすると、文学はどこかに「素性の不明さ」を抱えているということにもなります。もちろん、この「素性」は永遠に不明なわけではありません。素性の不明さを少しずつ乗り越えながら、意味を受け取り、解釈し、さらには読みどころをとらえていく、といった作業が作品を読むときには伴います。こうした作業を通し、どこか曖昧模稜とした状態から、少しずつ霧を晴らすように何かをとらえていくというのが文学作品の読みのプロセスなのです。

このようなことを言うと、試験問題のように問いがあつてそれに答えを出すというプロセスを思い浮かべる人もいるかもしれませんが、文学作品の抜粋は入試などでも出題されやすいです。もともと作品中ではことばが脱コンテキスト化され「孤立」していることが多いため、そのコンテキストをあらためて確認するという作業を出題者が要求しやすいのでしょう。

D

夏目漱石の『坊っちゃん』冒頭の一節（親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校の二階から

飛び降りて一週間程腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れぬ」という部分)に線を引いて、「ここではなぜ主語の『私』や『おれ』や『僕』が省かれているのか。そこには主人公のどのような性格が反映しているのか?」といった問いを立てることで、文章のコンテキストや「素性」を究明する作業に読者を導くことができるでしょう。

ただ、作品のことばの「素性」はこのように明確なQ&Aの形に落とし込めるとは限りません。今の冒頭部には他にももつと広い意味での「素性」を示す特徴が見受けられます。たとえば波線を引いたところに注目してください。

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間程腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と嘲したからである。小使に負ぶさつて帰って来た時、おやじが大きな眼をして二階位から飛び降りて腰を抜かす奴があるかと云つたから、この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

これらの文言に共通してあるのは、さまざまな形で「言う」という行為が示されていることです。書き手が意図したのかどうかはわかりませんが、小説中で人物たちがあれこれ発言するのは、決して不思議なことではないでしょう。しかし、こうしているんな人が物を言う状況が連続して出てくるという特徴にあらためて注目すると、『坊っちゃん』という小説世界の喧嘩や動きの多さ、主人公が周囲と持つ慌ただしい関係などもあらためて思い出されます。考えてみれば『坊っちゃん』という作品は、主人公が騒ぎやもめ事に直面して行動を起こすという展開になっています。そこでは声の応酬が、主人公の世界観や感性、対人関係などに影響を与えます。

あるいはそこから『坊っちゃん』の背後にあることばの文化にも思いが及びます。たとえば落語の世界では、動きを作るのは登場人物の矢継ぎ早の台詞のやり取りで、それを落語家が一人でこなすところがおもしろいわけですが、『坊っちゃん』にもそうした腹話術めいた技を忙しく使いこなす語り手像を読み取ることはできるでしょう。

このように小説のことばの「素性」というのは、「問い」を立てて「答え」を出すという筋道だけで再構築できるものではありません。そこで大事になるのは「答え」にたどり着くことだけでなく、「問い」にあたる部分を嗅ぎ分けていくことなのです。

(阿部公彦『文章は「形」から読む ことばの魔術と出会うために』による／一部改変)

(注)

※1 これまで見た文章 || これより前の箇所では、レシピや広告、契約書、挨拶などが取り上げられていた。

※2 ジョナサン・カラー || アメリカの文学研究者。

※3 W・O・クワイン || アメリカの哲学者、論理学者。

問一 本文中の空欄 **A** **D** に入る語として、最も適切なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ただし、選択肢は一度だけ選択できるものとする。解答は、解答番号 **13** **16** に、Aから順に、それらの番号をマークせよ。

- ① なぜなら ② そのため ③ つまり ④ ただ ⑤ では ⑥ たとえば

問二 二重傍線部XとYの本文中の意味として、最も適切なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号

17 と **18** に、Xから順にそれらの番号を順にマークせよ。

X 無鉄砲 ① 気が弱く消極的であること。 ② 不器用な様子。 ③ せっかちな様子。

④ 前後をよく考えないで事を行うこと。 ⑤ 出過ぎた態度をとるさま。

Y 喧噪 ① 勢いの盛んなさま。 ② ひどく驚くさま。 ③ 相手を非難すること。

④ 不安定な様子。 ⑤ にぎやかな様子。

問三 傍線部に「その手がかりとは『出自』です」とある。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **19** に、その番号をマークせよ。

- ① 文学作品というものの特色は、文章にどのように明確な「場」や「用途」があるかという点から探ることができるということ。
- ② 長い間批評家や研究者がこの問題に取り組んできた理由は、文学作品というジャンルの発祥が不明である点にあるということ。
- ③ 文学作品がその他の文章とどこが違うのかという問題を解決するには、はっきりとジャンルを示す姿勢が重要であるということ。
- ④ その文章に明確な「場」や「用途」があるということが、個々の文学作品の特色を解明するヒントになるということ。
- ⑤ レシピや説明書のように、はっきりとジャンルを示すことができるかどうか、文学作品の今後の評価を左右するということ。

問四 傍線部に「表層的な意味では、文学作品にも『場』があります」とある。筆者が「表層的な意味では」と述べている理由として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **20** に、その番号をマークせよ。

- ① 書店には「文芸作品」などのコーナーがあり、文学作品には特定の「場」が存在するように見えるが、作品を読んでいるときの私たちに、「娯楽」や「趣味」で読む場合を除けば、「用途」と言明できるような明確な目的があるわけではないから。
- ② 文学作品には、確かに書店に独自のカテゴリーが用意され、読む心構えを持って作品を手取るなど、一見、一定の「場」があるように思えるが、実は他の文章のように明確な「用途」があるわけではなく、その「場」から切り離されるものであるから。
- ③ 文学作品には、一見「場」や「用途」がなくその居場所が希薄であると考えられがちであるが、産業界の表層においては、仮想書店にしてもリアル書店にしても、「小説」や「文芸作品」といったカテゴリーやコーナーがしっかり用意されているから。
- ④ 文学作品は、レシピや説明書などの文章と比較すると実用性に乏しく、経済効果も低下してきているため、読む上での明確な「用途」が希薄であると思われるがちであるが、一部には、小説を読むという明確な心構えを持って作品を手取る人もいるから。
- ⑤ 文学作品にも「娯楽」や「趣味」という言い方でゆるく枠を示すことはできるが、実際には、他の文章のようなはっきりした「用途」が存在するわけではなく、私たちが文学作品を読む営みには、表層的な意味しか見いだすことができないから。

問五

傍線部ウに「そのあたりがはつきり出るのは次のような反対方向の実験を行ったときです」とある。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **21** に、その番号をマークせよ。

- ① 文学作品の文章の特徴は、レシピなり説明書なりを、それが置かれていた「場」から取り出しコンテキストを抹消すると、その「用途」が不明になり、文学作品がレシピや説明書などとは反対の特質を有していることが明らかになるということ。
- ② 文学作品の文章の特徴は、あらかじめ明確な「用途」をもつレシピなどとは反対に、「さあ、小説を読もう」という明確な心構えや「娯楽」や「趣味」で読むといった、「場」や「用途」を強調することによって明確になるということ。
- ③ 文学作品の文章の特徴として明確な「用途」がないということは、レシピの一部分を断片的に引き抜いて提示しただけで文学作品らしく感じられることから明らかであり、私たちの先入観によるものだということ。
- ④ 明確な「用途」がないことが文学作品の文章の特徴であることは、文学作品ではない他のジャンルの文章を、置かれていた「場」から取り出してみるとまるで文学作品であるように見え始めることで明確になるということ。
- ⑤ 明確な「用途」がないことが文学作品の文章の特徴であることは、逆に、明確な「用途」を有するレシピなどを題材とした文学作品を実験的に創作し、その文学性について考察することによって明らかになるということ。

問六 傍線部エに「文学作品の読みのプロセス」とある。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、

解答番号 **22** に、その番号をマークせよ。

- ① ジャンルや場というコンテキストから切り離され孤立した文章は、「素性の不明さ」を帯びるようになり、それが読者を不安にさせ、その文章は明確な「用途」に沿って真剣に読むべき対象へと格上げされ、その意味を解釈する作業がなされるということ。
- ② ジャンルや場というコンテキストから切り離され孤立した文章は、真剣に読むべき対象へと^{おとし}貶められ、読み進めるにしたがって読者の気持ちはどこか曖昧模糊とした不安定な状態から、少しずつ霧を晴らすように感じられるようになるということ。
- ③ ジャンルや場というコンテキストから切り離され孤立した文章は、読者に「読む」という行為を意識的に行わせる対象となり、読者は、意欲的に文章の意味を解読し、やがては文学作品として認識できるようになっていくということ。
- ④ ジャンルや場というコンテキストから切り離され孤立した文章は、読者に「読む」という行為を真剣に行わせる対象となり、読者は、文章の意味を受け取り解釈し、さらには読みどころを明確にとらえていくという作業を行うようになるということ。
- ⑤ ジャンルや場というコンテキストから切り離され孤立した文章は、読者に「読む」という行為を積極的に行わせる対象となり、読者は、そのコンテキストの確認という作業に追い込まれ、答えを求めるようになっていくということ。

問七 傍線部オに「今の冒頭部には他にももっと広い意味での『素性』を示す特徴が見受けられます」とある。筆者が考える『坊っちゃん』

の「もっと広い意味での『素性』」を示すものとして適切ではないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **23** に、その番号をマークせよ。

- ① 主人公が周囲と持つ慌ただしい関係。
- ② 主人公が騒ぎやもめ事に直面して次から次へと行動を起こすという展開。
- ③ 落語家が一人でこなすような腹話術めいた技を忙しく使いこなす語り手像。
- ④ 主人公の世界観や感性、対人関係に影響する声を与え続けている周りとの応酬。
- ⑤ 「ここではなぜ主語の『私』や『おれ』や『僕』が省かれているのか。」といった問いに対する答え。

問八

本文の内容と合致するものを、次の①～⑧のうちから二つ選べ。解答は、解答番号 24 と 25 に、それらの番号をマークせよ。ただし、解答の順序は問わない。

- ① 文学作品の「素性」を究明する上では、「答え」を出すだけではなく、「問い」にあたる部分を嗅ぎ分けていくことが大切である。
- ② 文章の「孤立」には、つねにミステリアスな雰囲気は漂ってくるため、読者は惑わされないよう慎重な姿勢をとる必要がある。
- ③ 批評家や研究者は、この一〇〇年ほど文学作品の特色について、ことばの「形」に注目しながら説明してみせた。
- ④ ジョナサン・カラーが哲学書の冒頭を行分けした上で引用した実験は、彼の意図とは異なる方向で解釈されることとなった。
- ⑤ 文章の化学変化と文学作品の「素性の不明さ」とは密接に関係しており、研究者はその関係の意味を明らかにする必要がある。
- ⑥ 『坊っちゃん』の「素性」の解明には、明確なQ&Aの形への落とし込みは適しておらず、人物たちの発言への注目が欠かせない。
- ⑦ 文学作品の抜粋は、入試などでも出題されやすいが、それは、脱コンテキスト化の効果を出题者が要求しやすいからである。
- ⑧ ジョナサン・カラーは、文学作品ではない文章をそのコンテキストを抹消するという簡単な方法で、文学作品のように見せた。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、この文章は、光源氏が自分の亡き後のことを考えて、息子の夕霧（中将の君）が幼い異母妹（姫君）と二人きりの兄妹として仲良くすることを許し、夕霧は姫君と人形遊びをしながら、相手の父親からまだ結婚を認めてもらえていない幼なじみで初恋の雲居雁（かの人）を思い出している場面である。

中将の君を、^{※1}こなたにはけ遠くもてなし聞こえ給へれど、^{※2}姫君の御方には、さしもさし放ち聞こえ給はず馴らはし給ふ。^{※3}わが世のほどは、とてもかくても同じことなれど、なからむ世を思ひやるに、なほ見つき思ひしみぬることどもこそ、^アとりわきてはおぼゆべけれとて、^{※4}南面の御簾の内はゆるし給へり。^{※5}台盤所の女房の中はゆるし給はず。あまたおはせぬ御仲らひにて、いとやむごとなくかしづき聞こえ給へり。おほかたの心用ゐなどもいともものしくまめやかにものし給ふ君なれば、^イうしろやすすく思しゆづれり。まだいはけたる御雛遊びなどのけはひの見ゆれば、かの人のもろともに遊びて過ぐしし年月の、まづ思ひ出でらるれば、^{※6}雛の殿の宮仕いとよくし給ひて、をりをりにうちしほたれ給ひけり。さもありぬべきあたりには、^{※7}はかなし言ものたまひふるるはあまたあれど、頼みかくべくもしなさず。さる方になどかは見ざらむと心とまりぬべきをも、強ひてなほざり事にしなして、^{※8}なほかの緑の袖を見えなほしてしがなと思ふ心のみぞ、やむごとなきふしにはとまりける。あながちになどかかづらひまどはば、たふる方に許し給ひもしつべかめれど、^ウつらしと思ひしをりをり、^エいかで人にもことわらせ奉らむと思ひおきし忘れがたくて、^{※9}正身ばかりには、おろかならぬあはれを尽くし見せて、^オおほかたには焦られ思へらず。^{※10}せうとの君たちなども、なまねたしなどのみ思ふこと多かり。

『源氏物語』による

(注)

- ※1 こなた Ⅱ 光源氏が最愛の妻である紫の上と暮らす御殿のこと。
- ※2 姫君 Ⅱ 光源氏と明石の君との間に生まれた娘。明石の姫君と呼ばれ、のちに天皇の后になる。
- ※3 わが世 Ⅱ 光源氏が存命中のこと。
- ※4 南面の御簾の内 Ⅱ 南の御殿の姫君の部屋に出入りすること。
- ※5 台盤所 Ⅱ 建物北側にある配膳室。紫の上付きの女房たちが出入りしている。

- ※6 雛の殿の宮仕 || 兄夕霧が、幼い妹明石の姫君のお人形遊びにつきあつてお守りもをすること。
- ※7 はかなし言 || 恋愛めいた言葉。
- ※8 かの緑の袖 || かつて夕霧は、雲居雁の実家から「緑色の袖の六位」と、低い位を嘲笑されたことがあつた。
- ※9 正身ばかりには || 恋しく思う雲居雁だけには。
- ※10 せうとの君 || 雲居雁の兄弟たちで、光源氏のライバルでもある内大臣（かつての頭中將とうちゅうじょう）の子どもたち。

問一 傍線部アに「とりわきてはおぼゆべけれ」とある。助動詞「べけれ」（終止形「べし」）の意味として最も適切なものを、次の①～

- ⑥のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **26** に、その番号をマークせよ。
- ① 推量 ② 意志 ③ 可能 ④ 当然 ⑤ 命令 ⑥ 適當

問二 傍線部イに「ものし給ふ君」とある。だれのことを指しているか。次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **27** に、

- その番号をマークせよ。
- ① 夕霧 ② 光源氏 ③ 姫君 ④ 雲居雁 ⑤ せうとの君 ⑥ 雲居雁の父

問三 傍線部ウに「まづ思ひ出でらるれば」とある。助動詞「らるれ」（終止形「らる」）の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の

- うちから一つ選べ。解答は、解答番号 **28** に、その番号をマークせよ。
- ① 受身 ② 可能 ③ 自発 ④ 尊敬 ⑤ 推量

問四

傍線部エに「いかで人にもことわらせ奉らむと思ひおきし」とある。この内容として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **29** に、その番号をマークせよ。

- ① なんとんでも雲居雁の親に、自分との結婚を理にかなったものとして認めさせたいと決意していたことが、
- ② どうして頼りにしてきた人との結婚を断られてしまったのか、その理由をぜひ知りたいと思っていたことが、
- ③ なぜ相思相愛の雲居雁との結婚を親に認めていただけないのか、心当たりが見つからないと思っていたことが、
- ④ どうかして父光源氏に、幼なじみの雲居雁と結婚することの言い訳をさせてほしいと、機会を伺っていたことが、
- ⑤ どんな手段を使っても、相手から、この結婚は理にかなっていないという理由で断ってほしいと思っていたことが、

問五

傍線部オに「おほかたには焦られ思へらず」とある。この内容として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、

解答番号

30

に、その番号をマークせよ。

- ① そもそも、焦^じらされているとは思っておられない。
- ② ちよつとやさそつとで、焦るとは思っておられない。
- ③ もともと、焦るような性格だとは思われていない。
- ④ 一般的に、焦っていらっしゃるとは思われていない。
- ⑤ 表面上、自然と焦りが出ているようには思われていない。

問六

本文の中で、夕霧はどのような人物として描かれているか。その人物像としてふさわしくないものを、次の①～⑥のうちから三つ選べ。解答は、解答番号 **31** ～ **33** に、それらの番号をマークせよ。ただし、解答の順序は問わない。

- ① 恋しい雲居雁との結婚を認めてくれない内大臣に対し、どんな手段を用いても承諾させたいと思い、機会をうかがっている。
- ② さりげない会話を交わすうちに、相手が夢中になってしまいそうになると、とたんに冷淡になってがっかりさせることがある。
- ③ 台盤所に仕える女房たちに対して、さしさわりのない会話を交わしたりはするが、深入りしないようにたえず気を付けている。
- ④ 異母妹の人形遊びに付き合いながら、かつての幼なじみで今も恋しい雲居雁を思い出しては涙ぐむという純粋さを持っている。
- ⑤ 真面目な性格の夕霧は、父の光源氏の教育方針に素直に従っているので、光源氏は息子を信頼し、異母妹と仲良くさせている。
- ⑥ 夕霧は、かつて官位が低い時に衣裳しやうの袖の色を嘲笑された屈辱が忘れられず、相手から見直されることを念頭に置いている。

問七

本文の内容と合致しないものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。解答は、解答番号 **34** ～ **35** に、それらの番号をマークせよ。ただし、解答の順序は問わない。

- ① 夕霧は、台盤所に仕えている女房たちの数が少ないので、互いに気まずくならぬようにいつも気を遣っている。
- ② 夕霧は、恋しく思う雲居雁の父親だけではなく、その兄弟たちからも結婚を反対され、今も遠ざけられている。
- ③ 夕霧が、光源氏の許可を得て、幼い異母妹のいる南面の御簾に入ることを、雛の殿の宮仕えと表現されている。
- ④ 夕霧は、幼なじみで互いに恋仲である雲居雁と、かつて雛遊びをして楽しんだことを今でも鮮明に覚えている。
- ⑤ 夕霧は、相手の父親から結婚を反対されているながらも、雲居雁に対しては、並々ならぬ情熱で恋い慕っている。
- ⑥ 夕霧は、結婚を反対している相手の父親に対し、強引に頼み込もうとはせず、あえて平静を装い続けている。